

## 第63回試験研究成果発表会\_野菜（露地野菜の台風対策） 発表概要

【動画配信期間】 令和8年3月27日（金）～令和9年1月5日（火）

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

### 発表1 成果発表

露地畑における最新の排水対策技術～カットブレーカー・縦穴暗渠・緑肥の効果～

土壤環境研究室 宮本 昇

露地畑における排水対策技術として、心土破碎、縦穴暗渠及び緑肥導入の効果を調査しました。カットブレーカーは低馬力のトラクターでも使用でき、作業速度も速く、全層心土破碎ができる有望な機械でした。縦穴暗渠は圃場内に電動オーガーで縦穴を掘削し、その穴にもみ殻を充填して排水性を高める技術で、湛水箇所の早期解消が期待できました。緑肥は根がより伸長し、すき込み量を確保できる品種で排水性改善効果が高い結果となりました。



カットブレーカーにより硬盤破碎した圃場



縦穴暗渠の施工状況

### 発表2 成果発表

露地畑における排水性の評価方法～現場で使える簡易調査法～

土壤環境研究室 宮本 昇

圃場の排水不良は、作物の生育不良および収量低下の原因となります。圃場の排水対策を講じるにあたっては、現状の排水性と対策後の効果を把握する必要があります。そこで、圃場の排水性を現場で簡易に評価するため、塩ビ管を用いた方法やデジタル貫入式土壌硬度計を用いた方法を明らかにしました。また、圃場の高低差を簡易に把握できる、国土地理院が提供する5メッシュDEMを用いた方法を紹介します。



塩ビ管を用いた簡易調査法の設置



塩ビ管を用いた簡易調査法での減水深測定

### 発表3 成果発表

#### 秋冬ニンジンの湿害対策

水稲・畑地園芸研究所 畑地利用研究室 田中 貴久

近年、夏秋期の台風や豪雨による農業への被害は深刻化しており、秋冬ニンジンでは湿害による欠株や根部の腐敗、規格外品の増加に繋がり、減収や品質低下が問題となっています。そこで、ニンジンの生育ステージごとの湿害リスクや播き直しに適する品種、播き直しの限界時期を明らかにしましたので紹介します。



人為的に湛水処理した様子



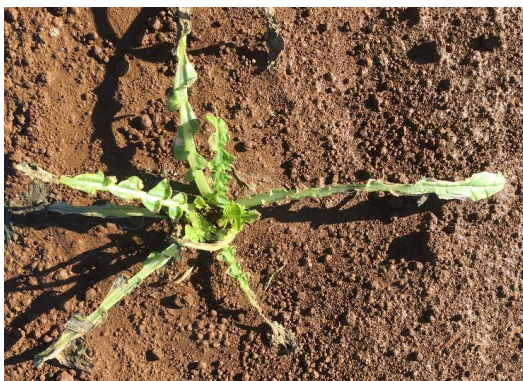
湿害により岐根が発生したニンジン

### 発表4 成果発表

#### ダイコンのべたがけによる風害・潮風害対策

東総野菜研究室 田村 創

地球温暖化により勢力の強い台風の増加が予測されており、露地野菜への風害・潮風害対策がますます重要になっています。そこで、ダイコン秋冬どり栽培において、べたがけによる暴風・潮風害 対策に有効な資材、被覆方法・時期等、さらに被害を受けた場合の生育促進方法を紹介します。



潮風害を受けたダイコン



べたがけによる暴風・潮風害対策事

## 発表5 成果発表

### かけっぱなしで大丈夫！ キャベツのべたがけによる台風対策

東総野菜研究室 大川 佳織

秋冬どりキャベツは台風の影響を受けやすい8～9月に定植が行われます。まだ小さいキャベツを強風から守るのにはべたがけが有効ですが、台風が近付くことが分かってから広い面積を被覆するのは、困難です。そこで、前もってべたがけして、台風のリスクが低くなってから被覆を除去する「かけっぱなし栽培」を開発しましたので紹介します。



強風で被害を受けたキャベツ



べたがけによるキャベツの被覆

## 発表6 成果発表

### 台風後に多発するキャベツ、ネギの細菌性病害対策

病理昆虫研究室 横山 とも子

近年、露地野菜では夏秋期の台風や豪雨などにより細菌性の病害が多発し、問題となっています。そこで、今回はその中からキャベツ黒腐病及びネギ軟腐病を対象に、薬剤による防除対策を確立するため、有効な薬剤の種類及び処理時期、降水量と防除効果との関係について検討したので紹介します。



キャベツ黒腐病発生株



ネギ軟腐病発生圃場

## 発表7 成果発表

### 食用ナバナにおける秋季の気象災害への対策技術の確立

野菜・花き研究室 曾我 みちる

食用ナバナは、台風等の秋期の気象災害で収穫始期の遅れや減収などの問題が生じています。令和元年度台風では大規模な潮風害が発生し、約半数の圃場で播き直しを余儀なくされました。しかし、播き直し等、台風の事後対策に関する知見が少なく、秋季の気象災害への対策技術の確立が望まれています。そこで、播き直しするかを判断するための被害程度を目安や、播き直しで対応できる時期、播き直しに適した品種を明らかにしたので紹介します。



台風 19 号の被害を受けた食用ナバナ  
(令和元年 10 月)



10 月中旬に播種した中生品種  
「CR 栄華」(1 月中旬撮影)